【参考資料Ⅰ】

「主体的・対話的で深い学び」の実現へ向けて

福島県教育庁県北教育事務所

目　　次

☆　**学校教育指導の重点全体構想** ---------- 1

☆　**「主体的・対話的で深い学び」の実現へ向けて** ---------- 2

1　「主体的・対話的で深い学び」の実現へ向けた授業づくり

ポイント１
単元をつくる・授業をつくる ---------- 4
ポイント２
教材との出合い・学習課題の把握 ---------- 6

ポイント３
追究・解決＜計画・方向付け・見通し＞＜個での追究・解決＞ ---------- 8

ポイント４
追究・解決＜ペアやグループ・学級全体での話合い＞ ---------- １０

ポイント５
まとめ・振り返り　新たな学び ---------- １２

2　主体的な学習を支える基盤づくり

○　学級・学習集団づくり　～「認め合い・励まし合い・磨き合い」～ ---------- １４

○　ふくしまの「家庭学習スタンダード」の活用について ---------- １６

3　日々の授業づくりを支える視点

○　連続性のある幼小中の接続となるために ---------- １８
～幼児教育の視点から～

○　子どもたちの夢をかなえる中・高連携の在り方 ---------- ２０
～高等学校教育の視点から～

○　すべての子どものよさや可能性を最大限に引き出すために ---------- ２２
～ユニバーサルデザインの視点から～

4　明確な目標設定による組織的な学力向上策の推進 ---------- ２４

＜参考文献・引用文献＞

学校教育指導の重点全体構想
福島県教育庁県北教育事務所学校教育課

夢をかなえる県北の教育

ふくしまから はじめよう。
Future From Fukushima.

授業づくりの5つのポイント

① 単元をつくる・授業をつくる
② 教材との出合い・学習課題の把握
③ 追究・解決 <計画・方向付け・見通し>
<個での追究・解決>
④ 追究・解決
<ペアやグループ・学級全体での話合い>

- □ 目的を明確にした話し合う場面の設定
- □ 子どもの考えをつなぎ、広げ、深める コーディネート

⑤ まとめ・振り返り 新たな学び

- □ まとめの時間の十分な確保
- □ 授業と家庭学習との関連

確かな学力

○ 主体的・対話的で深い学びの実現
・「授業スタンダード」に基づく授業づくり
・個に応じたきめ細かな指導
○ 学習規律・学習習慣の確立
・「家庭学習スタンダード」の自校化
・読書活動の推進
○ 組織的な学力向上策の推進
・「学力向上グランドデザイン」の推進・改善
・校内研修の充実、「互見授業」の推進

家庭学習を支える4つの取組

① 共通理解を図った指導
□ 家庭学習の手引きの自校化
② 授業と家庭学習の関連付け
□ 復習と予習の関連を図る宿題
③ 学習内容・方法の指導
□ 「調べ・考え・書く」活用型の宿題
④ 協力・連携体制の構築
□ 小学校間、小中学校間での共通理解

質を高める取組

① ロングスパン、ショートスパンのR－PDCAサイクルの確立
② 全国学調、ふくしま学調の分析・活用
③ 活用力育成シート、定着確認シートの活用

豊かなこころ

○ 心に響く道徳教育の推進
・指導内容の重点化
・授業の量的確保、質的転換
・保護者や地域と連携した道徳教育
○ ひとと関わる豊かな体験活動の充実
・地域の人や異年齢集団等との交流活動
・勤労観・職業観を育むキャリア教育
○ 子ども理解に基づく生徒指導の充実
・いじめ、不登校の未然防止・早期発見
・教育相談の充実（SC、SSW等との連携）
・情報モラルに関する指導

健やかな体

○ 進んで運動に取り組む態度の育成
・運動の楽しさや喜びを実感させる工夫
・子ども一人一人の運動量の確保
○ 体力向上のための組織的な取組
・体力向上推進計画の改善
・体育的活動の充実と環境整備
○ 健康・安全な生活への指導の充実
・保健・安全指導（感染症への対応）
・望ましい食習慣を育成する食育
・自ら考え行動できる放射線・防災教育

温かな学級 学習集団

目標に向かって協力し、粘り強く取り組む学級・学習集団

互いのよさや成長を認め合い、違いを理解し合える学級・学習集団

教師と子どもが信頼し合い、何でも言い合える学級・学習集団

幼児教育の充実

○ 発達の時期に適した指導計画の作成
・生活や発達の連続性
・家庭・地域・小学校の連携
○ 主体的・対話的で深い学びを実現する保育の展開
・教材の工夫と環境の構成
・試行錯誤や考える過程の重視
○ よさや可能性を見取る評価の工夫・活用
・幼児理解に基づく子どもの実態把握
・見取りに基づく情報交換・意見交換

特別支援教育の充実

○ 全教職員による支援体制の充実
・コーディネーターを中心とする支援体制
・校内研修の活性化
・ユニバーサルデザインの視点を生かす指導
・交流及び共同学習の推進
○ インクルーシブ教育システムの推進
・「個別の教育支援計画」
「個別の指導計画」の作成・活用
・進学時の引継ぎ体制の確立
・本人、保護者との合意形成に基づく合理的配慮の提供
・関係機関との連携

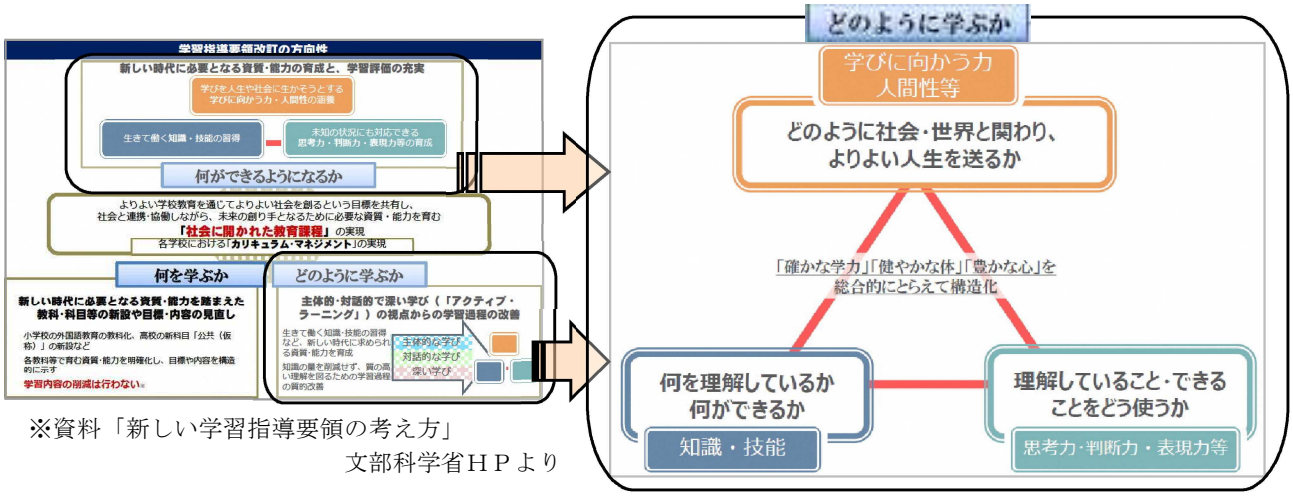
家庭や地域社会、関係機関との連携

・家庭の教育力向上を図るPTA活動の充実
・地域全体で子どもを育てる地域学校協働活動事業の推進
・地域人材、NPO、企業、公民館、図書館等を活用した活動の推進

「主体的・対話的で深い学び」の実現へ向けて

平成２９年３月、新しい学習指導要領が告示され、小学校では令和２年度から、中学校では令和３年度から全面実施されます。この学習指導要領では、授業の創意工夫や教材等の改善を引き出していくことができるよう、全ての教科等の目標及び内容が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の３つの柱でまとめられています。

子どもたちがこれからの時代に必要とされる資質・能力を身に付けて深く理解し、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするため、従来「何を教えるか」が重視されていた学習指導が、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」という視点で再整理されました。そして、学習の質を一層高めるための取組を活性化させ、**「主体的・対話的で深い学び」の実現**に向けた授業改善の推進が図られることになりました。



※資料「新しい学習指導要領の考え方」
文部科学省ＨＰより

「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るためには、以下の３つの視点から授業改善を進めることが必要です。

（１）学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる**「主体的な学び」**が実現できているかという視点。
（２）子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める**「対話的な学び」**が実現できているかという視点。
（３）習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう**「深い学び」**が実現できているかという視点。

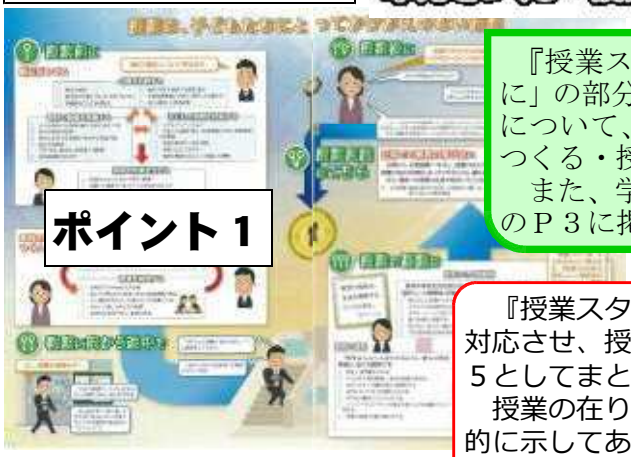
※　学習指導要領解説　総則編　第３章　教育課程の編成及び実施　第３節　教育課程の実施と学習評価

このことは、小・中学校において、これまでと異なる指導方法を導入しなければならないということではなく、現在すでに行われている日々の授業を、「主体的・対話的で深い学び」の視点から改善し、単元や題材のまとまりの中で指導内容を関連付け、質を高めていく必要性を示しています。

こうしたねらいを踏まえ、福島県教育委員会では「ふくしまの『授業スタンダード』」及び「ふくしまの『家庭学習スタンダード』」を中心とした「学びのスタンダード」を策定しました。
各小・中学校においては、すでに『授業スタンダード』を生かした授業改善が推進されているところですが、県北教育事務所では、授業改善の視点をより明確化・具体化していくために、『授業スタンダード』に基づく授業づくりの視点を５つに整理しました。そして、授業の在り方や授業における支援の仕方などについて具体的に示すことができるよう「【参考資料】『主体的・対話的で深い学び』の実現へ向けて」を作成しました。
さらに、要請訪問を振り返り、部分的な見直しを図りながら「【県北版】学校教育指導の重点」を改訂しました。日々の授業の準備や実践、校内研修の機会や家庭学習の充実に向けた取組のための資料として活用していただければと思います。

『授業スタンダード』に基づく授業づくりの５つのポイント

ポイント１について　単元をつくる・授業をつくる



『授業スタンダード』のＰ２に掲載されている「授業前に」の部分にある「単元をつくる」「本時の授業をつくる」について、本資料では授業づくりの**ポイント１**「単元をつくる・授業をつくる」としてまとめました。
　また、学習の基盤づくりについて『授業スタンダード』のＰ３に掲載の「授業の基盤は」を参考に作成しました。

『授業スタンダード』の見開きＰ３～Ｐ６と対応させ、授業づくりのポイント２、３、４、５としてまとめました。
　授業の在り方や支援の仕方のポイントを具体的に示してあります。
　日々の授業づくりや校内研修の資料として活用していただければと思います。

ポイント２～５について

ポイント２は授業の導入である、**教材との出合い・学習課題の把握**についてまとめました。子どもの「主体的な学び」の実現を目指し、子どもの問いや願いが学習課題に生かされるように工夫していくことについて述べました。

ポイント３は**解決の見通し**をもって、**自力解決**に向かう場面について留意すべきことをまとめました。全ての子どもに課題解決に向けた見通しをもたせるための工夫や、その後の授業展開に生かすための効果的な見取りの方法などについて述べました。

ポイント４は「対話的な学び」を実現するような、協働的な学習の**教師のコーディネート**についてまとめました。子どもの考えをつなぎ、新たな考えをつくりあげることや、全体の場で考えを練り上げ、学級全体の学びとして共有していくための手立てなどについて述べました。

ポイント５は学習内容の確かな定着と学びの広がりが実現できるように、一人一人が**本時の振り返り**を行い、「何を学習したか」を明確にし、子どもの言葉を大切にして**めあてとまとめの整合性**をもたせることについて述べました。さらに、**適用の場**の設定についてふれるとともに、**次の学びへつなげるための視点**についてまとめました。

1　「主体的・対話的で深い学び」の実現へ向けた授業づくり

ポイント１　単元をつくる・授業をつくる

「明日の授業をどうしよう」とばかり心配していませんか？そのような心配を解消するために、単元づくりを見直してみてはいかがでしょうか。

◇　単元の目標を達成する指導計画を立てるために

目標の把握

教材の価値の把握

教材の価値を見いだす！

○　教材に内在する、単元で求める資質・能力を育成するための価値を見いだしましょう。

○　**教科書**の構成や掲載されている資料、数値などを本文と関係付けて読み込みましょう。

○　異校種の教科書も参考にして、**学年間の系統性**や**単元間の関連性**等を把握しましょう。

単元の目標を明確に！

○　教科等の特質に応じた「見方・考え方」、学習内容、**育てたい資質・能力**を明確に捉えましょう。

この単元で身に付ける

☆「知識・技能」は？

☆「思考力・判断力・表現力等」は？

☆「学びに向かう力・人間性等」は？

○　３つの資質・能力を身に付けた具体的な子どもの姿を、目標としましょう。

子どもの実態把握

目的をもった実態把握を！

○　**授業風景**を思い描き、その実現につながる実態把握をしましょう。

○　**各種調査**で学年、学級の状況や子どもたちの特性等を捉えましょう。

○　**レディネステスト**や**アンケート**等で、単元に関わる既有の知識等や予想されるつまずきを捉えましょう。

単元の指導計画・評価計画

○　単元の終わりの子どもの姿を３つの資質・能力の視点で描きましょう。

・第一の視点「何がわかり、何ができるようになっていてほしいのか」
・第二の視点「どのようなことを考え、判断し、どのように表現してほしいのか」
・第三の視点「どのようなことに新たな学びを見いだしてほしいのか」

○　単元全体を見通した計画を立てましょう。
・単元のねらいと「教材」、「学習活動・内容」、「子どもの実態」とのつながりを明確にする。実態に応じて単元や領域に軽重をつけて、単元の重点化を図る。

○　目標達成のための言語活動を設定しましょう。
・言語活動を課題解決・課題追究の過程に位置付ける。
・思考や判断を促す発問や指示を具体化する。

○　単元全体で、３つの観点をバランスよく評価しましょう。
３観点：「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」

ゴールからの構想を

「何を指導するか」ではなく、「どのようなことができるようになるか」を授業構想のスタートとしましょう。

◇　本時の授業をつくるために

○　授業の終末の子どもの姿を具体的に描きましょう。
・「何がわかり、何ができるようになっていてほしいのか」
・前時、次時との関係を考え、本時で身に付けることを精選し、焦点化する。

○　目的や方法を明確にした指導上の留意点を考えましょう。
・目的の明確化（「～のために」を言えるように）
例：「自分の考えとは異なる考えにふれさせるために」
・方法の明確化（「～を通して」「～することで」を言えるように）
例：「ホワイトボードの活用を通して、子どもの思考を可視化する。」

○　評価の場面や方法を適切に設定し、指導の改善につなげましょう。
・目標、指導、評価、まとめの整合性が図られているか。
・授業時間内に手立てを講じることができる場面か。
・その場面で確実に子どもの学習状況を捉えられる方法か。
評価の例：観察、対話、ノート、ワークシート、作品、レポート、ペーパーテスト など

指導案で単元づくりや授業づくりの確認を！

何を目的として、どのようなことをするのかを明確にもつことは、指導の手立ての有効性を高め、子どもたちの学びを確かなものにすることにつながります。

第４学年 算数科指導案

指導者：□□　□□
場　所：○年△組　教室

1　単元名　面積のはかり方と表し方

2　単元の目標

○　面積の単位の意味を理解し、正方形及び長方形の面積の計算による求め方について理解できる。【知識・技能】

○　面積の単位や図形を構成する要素に着目し、図形の求め方を考えるとともに、面積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察することができる。【思考・判断・表現】

○　平面図形の面積について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。【主体的に学習に取り組む態度】

3　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①　面積の単位（平方センチメートル（c㎡）、平方メートル（㎡）、平方キロメートル（k㎡）について知っている。 ②　正方形や長方形の面積の計算による求め方について理解している。	①　面積の単位や図形を構成する要素に着目し、図形の面積の求め方を考えているとともに、面積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察している。	①　平面図形の面積について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え、検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。

4 単元の構想

※　教材観、児童（生徒）観、指導観など記述することが多いですが、単元を通して学びが深まった子どもの姿を具体的に記述することを大切にしてください。特に、教材の系統性を確認することや本時の授業内容に関連するレディネスや学習状況などを捉えて授業案に記述することが、授業づくりに役立ちます。

★　単元を通して育成する資質・能力が、どのような段階を経て育っていくのかイメージするとともに、前時、本時、次時をどのようにつないでいくのかを明確にして計画を立てましょう。

★　子どもの学習状況を確認し、その後の指導に生かすための評価（・形成的評価）と、総括の資料とするために行う評価（○記録に残す評価）を単元を通して計画的に行いましょう。

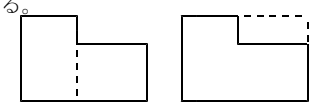
時	ねらい	学習活動	知	思	態	評価規準（評価方法）
3 4	長方形、正方形の面積を計算で求める方法を理解し、面積の求め方を公式にまとめることができる。	・　長方形、正方形の面積を計算で求める方法を考える。		・		・　思①（観察・ノート） 1㎠の数に着目して、長方形や正方形の面積の求め方を考え説明している。
		・　公式を用いて、長方形や正方形の面積を求めたり、辺の長さを求めたりする。		○		○　思①（観察・ノート） 正方形、長方形の特徴や1cm²のますの数に着目して、長方形や正方形の面積を求める公式を考え、説明している。

5　単元の指導計画・評価計画

6　本時の目標

図形を分割したり付け足したりしながら、長方形の面積の公式を活用して複合図形の面積の求め方を考えることができる。

7　学習過程

学習活動・内容	時	指導上の留意点　※評価（方法）
1　学習課題を把握する。 ・　前時の学習内容を振り返る。 ㋮　どのようにすれば、下のような面積を求めることができるかな。 2　解決の見通しをもつ。 ・　長方形に分けて求める方法 ・　長方形の面積から小さい長方形の面積を引く方法 3　自分の考えた方法で面積を求める。  ○×△＋◇×◎　　○×□－☆×▽ 4　全体で共有・吟味する。		改善前・　子ども一人一人の解決の様子を捉え、個別指導する。 改善後 ・　既習との違いを捉えられない児童には、周囲の児童と話し合わせることで問題の図形の構成に着目できるようにする。 ・　全体で解決の方法を整理・分類し、統合化するために、図形分割の方法を先に共有し、次に大きい長方形からひく方法に向かうような意図的指名を行う。

この表現では、どのようなつまずきをしている子どもに、どのような手立てを行うのかが分かりづらいですね。

図形が長方形の組合わせだということに気付かない子どもにはどのように指導しようかな？

子どものつまずきを具体的に予想して、指導上の留意点に盛り込むと、授業のイメージがより明確になります。

「～するために、～する。」や「○○に着目できるように、△△」のように、手立ての目的を明確にしましょう。

ポイント２　教材との出合い・学習課題の把握

「今日のめあては○○です。わかりましたか？」
このように、教師の一方的な課題提示になっていませんか？

子どもとの対話を通し、「教師の学ばせたいこと」が「子どもの学びたいこと」となるよう、擦り合わせを意識して学習課題を設定することが大切です！

◇　教材との出合い～「問い」や「思い・願い」を引き出す～

教材との出合わせ方を工夫し、子どもの興味・関心を高め、「問い」や「思い・願い」を引き出しましょう。

子どもの「問い」や「思い・願い」から

おもしろい！
やってみたい！

なぜ？どうして？

考えてみたい！
解いてみたい！

調べてみたい！

学習課題の設定へ

子どもの「問い」や「思い・願い」を生かした学習課題を設定し、追究意欲を高めます。

教師は、子どもに「どのような力を身に付けさせるのか」を考え、学習課題を設定します。

【「問い」や「思い・願い」を引き出す教材との出合い（例）】

○　ＩＣＴの活用・具体物の提示
- 資料を少しずつ見せる。一部を隠して見せる。
- 複数の資料を比較したり、分類したりして特徴を見付けさせる。
- 社会や日常生活と関連があるものを提示して具体的なイメージをもたせる。　など

○　既習事項の振り返り
- 既習から未習へ移ることでギャップを感じさせる。「できる→できる→あれ？」
- 前時までのノートや掲示物等により振り返らせる。　など

どちらの水筒に多く水が入っているか調べるにはどうすればいいかな？

○　実演・演示
- 教師による実験などの実演・演示を行い、興味・関心をもたせる。
- 子ども自身が試してみる活動を取り入れ、主体的に取り組ませる。　など

冷たい水をコップに入れたら水滴がついたのはなぜかな？

○　子どもとの対話
- 子どもとの対話から疑問や矛盾、葛藤等を引き出す。　など

【学習課題の設定につなげる教師の発問の例】

- みんなが調べたいことをまとめると、どうなりますか？
- ということは、今日は何を考える必要がありますか？
- みんなの疑問を整理すると□□となりますが、どうですか？
- Ａさんの疑問、いいですね。それをみんなの課題にしましょうか？　など

◇　学習課題の把握～「何を学習するか」「何ができればよいか」を明確にする～

「～について考えよう」の課題をもう一度見直してみましょう。「なぜ～」「どのように～」「～は何か」など、子どもの問いの解決を図り、何を学習するのか、何ができればよいのかを示唆する課題を、子どもの言葉を基に設定することが大切です。

※　教師による学習課題の設定だったとしても･･･

子どもから「問い」を引き出し、学習課題につなげることが難しい場合もあります。また、学習の内容においては「～しよう」という教師による課題の設定もあります。

このような場合でも、発問を工夫することで、**学習課題を学習の主体者である子ども自身のものとして意識させることが大切です。**

前の時間に課題として残っていたことを思い出してみましょう。

では、どんなことに気を付けて学習するかを考えてみましょう。

学級として○○というめあてに取り組みたいのですが、どのように学習していけばいいでしょうか。

その学習課題、ちょっとした工夫で変わります！

◇　子どもから問いを引き出し、解決の必然性・必要感から設定した課題

＜ 社会科「人々の健康や生活環境を支える事業」（第４学年）＞

蛇口実物の提示

水は私たちの生活に欠かすことができないね。

この蛇口をひねっても水が出てこないけど…。

水はどこから来ているのだろう？

- 雨水をためて使っているのかな？
- わき水や川の水を使っているのかな？
- だれかがつくっているのかな？

学習の導入においては、**蛇口（実物）**を壁に付けて提示するなど意外性をもたせると、児童の**「？」**を引き出すことができます。

生活場面や生活経験を想起させ、**「人、もの、こと」**と結び付けることで、普段何気なく見ているもの（人、こと）が、**社会的事象**としての意味をもち、価値ある学習材となります。

資料の提示の仕方については、**部分的**な提示や**段階的**な提示により、児童の興味・関心を引き出し、**必然性のある課題設定**ができます。

課題に対する予想を立てさせたり、疑問点を全体で出し合ったりする中で、追究したい内容が児童のものとなり、学習活動を主体的に進めていくことができます。

＜ 体育科「ゴール型ゲーム」＞

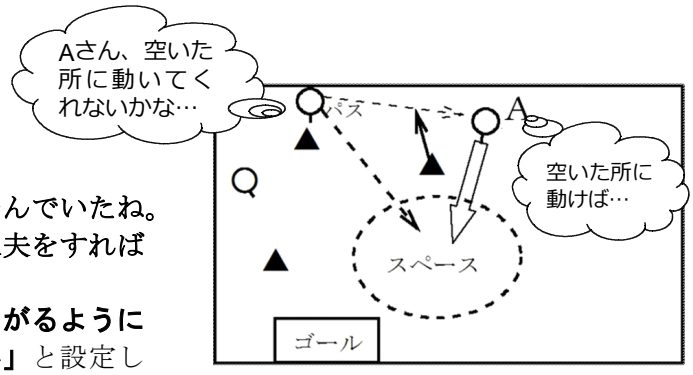
T　前の時間のパスはどうだった？

C　パスをすると相手にとられた。

C　パスがつながらなくて、ゲームにならなかった。

T　そうだね。パスがつながらなくて悩んでいたね。

T　パスをする側、もらう側はどんな工夫をすればいいのかな？



そこで、学習課題を**「うまくパスがつながるようにするには、どのように動けばよいだろうか」**と設定します。

例えば、「パスの仕方を工夫してゲームをしよう。」と、教師が一方的に提示するよりも、本時の目標**「空いた場所にすばやく動いてパスをつなげる」**ことについて主体的に思考させ、運動させることができます。

技能を中心とした教科であっても、子どもとの対話を通して、子どもの問いを引き出し、解決意欲を高める課題を設定することができます。

＜ 家庭科「エプロンの製作 」＞

本時の目標が**「形や機能などにこだわりながら、自分が作りたいエプロンを考える」**ことであるとき、身の回りで使われているエプロンに関心をもち、自分の生活に役立つエプロンを考えて、「作ってみたい！」という製作意欲を高めることが大切です。

例えば、学習課題を**「自分だけのこだわりエプロンをデザインしよう」**と設定します。

このような場合、家庭学習として家族やお店の方に「使っているエプロンの便利なところ」についてインタビューをしてきます。エプロンの「色や形」、「つくりや機能」についての情報を持ち寄り、対話を通して作りたいもののイメージをもたせます。

みなさんは、どんな「こだわりエプロン」を作りたいですか？

お父さんのエプロンは、「汚れが目立たない色」だった。「大きいエプロンだと服が汚れない」って言ってたよ。ぼくもそうしよう。

小物などが入る大きさの「何でもポケット」が欲しい。大事な物が落ちないようにボタンも付けてみたい。

お母さんに聞いたら、「エプロンの端は三つ折りして縫うと、ほどけないので丈夫だよ」って教えてくれたよ。私のエプロンもそうしたい。

ポイント３　追究・解決　≪計画・方向付け・見通し≫ ≪個での追究・解決≫

子どもたちが自力解決の場面で戸惑っている姿はありませんか？

「授業におけるゴール」をはっきりと意識させ、「そこにたどり着くためにはどのようなことをするのか」という見通しをもたせることが大切です。

◇　課題解決の見通しをもたせるためには？

○　「結果の見通し」をもたせる。

＊　「授業におけるゴール」をはっきりと意識させましょう。

- 答えを予想する。
- 仮説を立てる。
- 作品の完成図をイメージする。
- 何について考えていくのか分かる。
- 何をどのようにするのか分かる。　など

○　「方法の見通し」をもたせる。

＊　子どもの状況によって、何も与えずに考えさせたり、既習事項や経験を思い出させたり、直接ヒントを与えたりするなど、対応を考えましょう。

- これまでの学習で使えることを想起する。
- 調べる視点をとらえる。
- 学習の道筋（順序）を考える。　など

○　見通しをもつことができているか見取る。

＊　すべての子どもが見通しをもっているか見取る場面を設定しましょう。

- 一人一人の発言に着目する。
- ノートの記述内容から見取る。
- ペアでめあてを確認させる。
- 解決方法をネームカード等で選択させる。　など

課題を設定した後、目的や観点をもたずに机間指導をしていませんか？

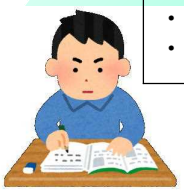
子どもの思考を的確に見取ることが大切です。指示した内容や活動が適切であるか判断するとともに、どうコーディネートに生かすか考えましょう。

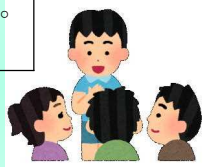
◇　見方・考え方を働かせた姿を見取るためには？

※　見方・考え方を働かせた姿については「【県北版】学校教育指導の重点」を参照してください。→

机間指導

- 発問の理解、反応、全体の傾向を把握する。
- ねらいの達成につながる「見方・考え方」になっているかを把握する。
- 個々のつまずきがどこにあるかを把握する。





座席表等の活用

予想される反応を前もって分類しておき、意図的指名につなげる。

ノート等

- 自分の考えを書いた部分から子どもの思考過程を見取り、授業展開に生かす。
- よい点を称賛したり、励ましのコメントを入れたりしながら意欲を高める。
- 授業後に自分の指導を振り返ったり、次時の指導に生かしたりする。

子どものつぶやきや発言、教師とのやりとり等から

- つぶやきの中のキーワード
- ペアやグループ学習での発言
- 友達に聞いていたり、教えていたりする様子
- 教師の問いかけに対する反応　など

子どもに自分の意見や考えをもたせずに話合い活動に入っていませんか？

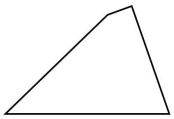
子どもが自分の考えをもち、課題を追究・解決する時間を確保しましょう。その際、個での追究を促す発問を工夫することが大切です。

◇ 個での追究を促す発問とは？

○ 考えを揺さぶる。
これまでの既習内容や経験に反することを投げかける。
「～だったよね。でも、～なのはどうしてだろう。」

子どもたちが、「見方・考え方」を働かせるように、発問を吟味しましょう。

○ 葛藤を生む。
これまでの学習から、どちらか判断に迷うことを問う。
「これは、三角形ですか。四角形ですか。」



○ 多面的に見させる。
新たな視点でアプローチする方法を示し、子どもによる解決を促す。
「もし、～だったらどうなるだろうか。」

○ 矛盾・対立を生む。
考えの共通点や相違点を整理したり、根拠や微妙な違いを問い返したりする。
「～というところは本当に同じかな。」

机間指導における見取りと支援

☆ 三つの段階を意識して、机間指導を行いましょう。

段階１　概観する …… 子どもがねらいに沿った活動を行っているか

できていない

手立ての例
- 「めあて（問題）を確認しましょう。」
- 「どの方法で考えますか。」
- ワークシート、資料、具体物等の活用

※ 多くの子どもに誤解等が見られる場合は、一度全体を注目させて、発問や指示を改めます。
※ 予定している自力解決の時間を大幅に変更する必要があるかどうか、この段階で見極めます。

できている（できた）

段階２　助言する
…「気付き」「関連付け」などで思考を深める

○ 手立ての例
- 「これはどういう意味かな。」
- 「どうしてこう考えたの。」
- 「絵や図をかいて整理してみよう。」
- 考えるための技法を提示する。
（分類、比較、関連付け　など）

子どもの目の高さで

認め励ましながら（朱書き、丸）

個の実態に応じた個別指導

段階３　内容を見る
… 話合いにおけるコーディネートに生かすために

○ 全体の話合いで取り上げたい考えを決める。
○ 意図的指名の順番を構想する。

※ 事前に予想される考え方を**想定・分類**し、それらを**暗号化**したり**色別**にしたりして、**座席表などに記録**することが有効です。

○ ＴＴで行う授業では、教師同士の事前の打合せをしっかり行いましょう。
（見取りの観点、指導に入る順番など）

ポイント４　追究・解決　<ペアやグループ・学級全体での話合い>

話合いを授業に取り入れること自体が目的になっていませんか？

まず、何のために、何を意図してペアやグループ・学級全体での話合いを取り入れるのか、その目的を明確にすることが大切です！！

◇　話合いの目的を明確にするには？

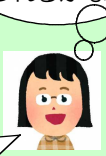
○ 話合いで「期待される子どもの姿」を明確にする

（確　信）「僕も同じ考えだ。これでいいんだよね。」
（共　感）「そうそう、私もそう思うんだよね。」
（吟　味）「あれ、なにか違うね。なぜだろう？」
（再構築）「ということは、こういうことかな？」
（推　論）「もしかしたら、こうかもしれないよ。」
（創　意）「だったら、こうしてみたらどうかな？」

仲間と考えを共有したり、吟味したりすることを通して、子ども一人一人の中に対話が生まれ、新たな考えがつくり出される。

炭酸飲料から発生する気体は二酸化炭素かな？

私は二酸化炭素だと思うけど、どうすれば確かめられるかな？



気体検知管を使えばわかるね。

気体検知管以外では調べられませんか？今までの実験を思い出してみて。

そうだ、石灰水も使える！

○ ねらいを明確にして話合いを授業に位置付ける

<ねらいの例>

- 多様な考えを整理する
- 多面的な思考を促す。
- 多様な解釈を促す。
- 多くの発想を促す。
- 学習内容の習熟を図る
- 疑問を解決する。
- 考えを深めるために、えを共有する。
- 考えを深めるために、比較したり、検討したりする
- 学習を振り返る。
- 合意形成を図る。
- 多様な考えを一つにまとめる。

◇　子どもの考えが交流する充実した話合いにするには？

○ 教師のコーディネートにより、子どもの考えをつなぎ、広げ、深める

教師のコーディネート例

考えをつなぐ言葉かけ

【教師の言葉かけ】	【ねらい】
・「～さんの考えのよいところはどこですか」	（発　見）
・「～さんはどうして、このような考えが浮かんだのだと思いますか」	（推　測）
・「～さんの考えを簡単に言えますか」	（要　約）
・「～さんの考えの続きが分かりますか」	（予　想）
・「～さんの気持ちが分かりますか」	（共　感）
・「～さんの考えのヒントが言えますか」	（補　助）
・「～さんの説明をもう一度言えますか」	（再　生）

広げ・深める「つなぎ言葉」

- 「…を基にすると」
- 「だとしたら…」
- 「たとえば…」
- 「つまり…」

その場所でいいですか？

- 子どもの座席
- 先生の立ち位置

子どものつぶやきや表情の変化をしっかりととらえて、言葉をかけましょう。

○ コーディネートの充実を図るために（コーディネートの流れ）

把握（見取り）	解釈	選択	実行
授業中のあらゆる場面で見取る。教師の話を聞くときの姿だけでなく、他の子どもの話を聞くときの姿なども見逃さない。	見取った子どもの姿が生じた原因を考える。授業の進み方、理解度、興味・関心等を子どもの立場で想像する。	再度説明するのか、子どもに説明させるのか、隣同士で相談させるのか等を選択する。手立てを数多くもつ必要がある。	具体的にどのような言葉で発問・指示するか、誰をどの順に指名するか等を考慮しながら次の指導を実行する。

※ 福島県教育センター HP「授業中における『コーディネート』の在り方」参照

思考の可視化を図る板書やツールの効果的な活用例

思考が働く発表・話合いになっていますか？

水力や太陽光、生物体の有機物などをエネルギー源とした、再生可能エネルギー資源の利用が進められています。
例えばバイオマス発電は…アルコールを燃焼させて発電します。

ホワイトボードの文字が小さくて読みにくい。

いろいろな用語が出てきてわかりにくい。ポイントがわかるように説明してほしいな。

模造紙やホワイトボードに書いたことを、そのまま読むだけ、出し合うだけの発表になっていませんか？

考えが共有できるように、視覚で捉えやすくする工夫が必要です。

話合いの状況を見取り、意図的な順番で発表させていますか？

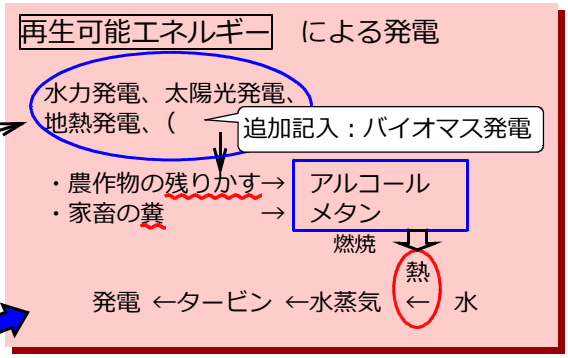
＜黒板・ホワイトボードの活用例＞

○　話合いの視点や論点を明示する。
- どのような視点から考えるのか？
- どのようなテーマで話し合うのか？
- 何の目的で話し合うのか？

○　思考を刺激し、考えを深めるよう板書を工夫する。
- 書く位置　・文字の大小、間隔　・空白や色チョーク（色ペン）の活用　など

○　聞き手に内容が伝わるよう、発表の仕方を工夫する。
- 長い文章を避け、キーワード程度にとどめるなど視覚で捉えやすくする。
- 項目やキーワード等を線でつなぎ、関連が分かるようにする。
- キーワードやアンダーライン等を書き加えながら強調して説明するなど、ポイントを捉えやすくする。

＜ホワイトボードを使ったまとめ方の例＞



これらが「再生可能エネルギー資源」です。例えばバイオマス発電は…仕組みは火力発電と共通するところがありますが、何度でも資源が再生できることがポイントです。

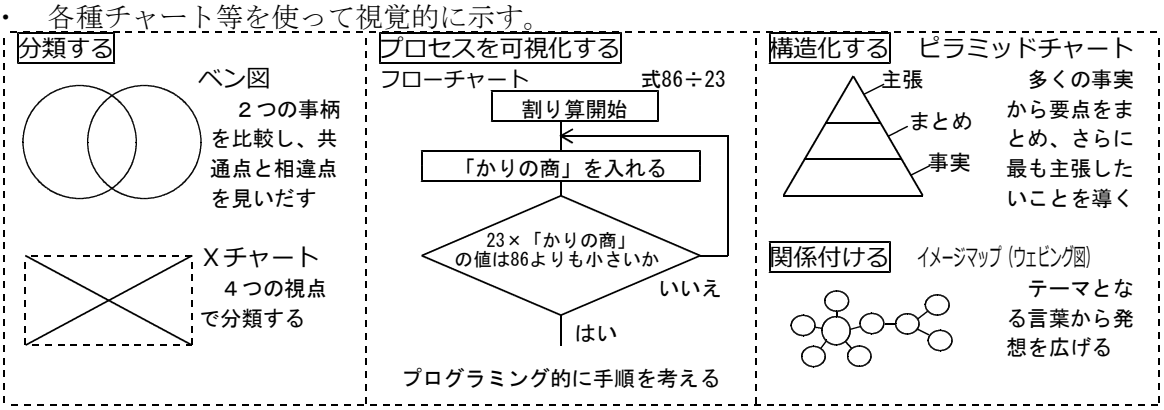
＜ツール等の活用例＞

授業のねらい等に応じ、必要な場面で効果的に使いましょう。

○　ミニホワイトボードを使って話し合い、考えを類型化する。
- ミニホワイトボードにメモ的に書いたり消したりしながら話し合う。

※　考えを書いた付箋等を活用すると、ミニホワイトボードに貼る位置を変えることができるため、整理しやすい。

○　思考ツールを活用する。
- 各種チャート等を使って視覚的に示す。



※　**ポイント4**については「【県北版】学校教育指導の重点」P9～P34の「各教科等の指導の重点」も参考にしてください。

ポイント５　まとめ・振り返り　新たな学び

学習内容の確実な定着や主体的な学習態度の育成には、振り返る活動が大切です。確実に実施するためにはどうしたらよいでしょうか。

授業の時間は限られています。授業前にまとめに入る時刻を決めておきましょう。そうすることで、まとめのための十分な時間の確保につながります。

◇「何を学習したか」をまとめるために

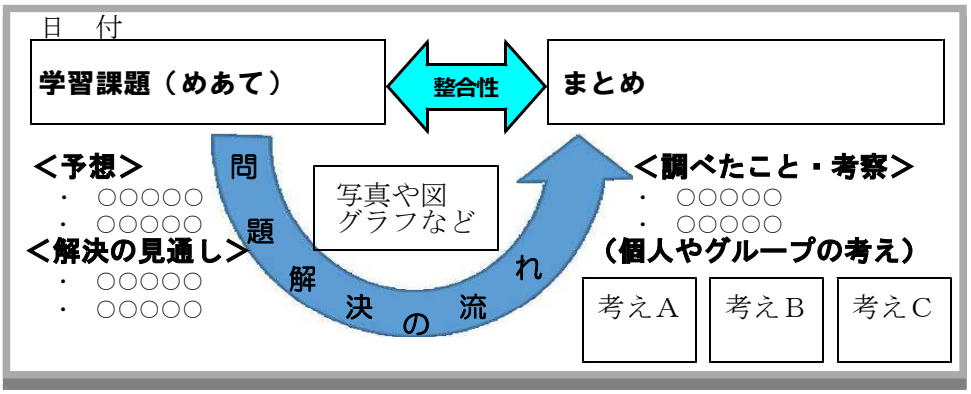
○　学習課題（めあて）とまとめの整合性を！

本時のまとめは、課題との整合性を図り、本時に身に付けさせたいことが明確になるようにまとめる。

○　問題解決の流れが分かる構造的な板書を！

学習課題、予想、調べたり考えたりしたこと、結果、まとめまでの一連の学習を子どもの思考の流れに沿って構造化することで、一目で授業全体を振り返ることができます。

学習の流れが分かる構造的な板書例



学習課題とまとめを左右に配置したり、問題解決の流れを示したりすることで、子どもの論理的思考が促されます。

この板書例以外にも、上下に分けて対比する、左右に分けて対比するなど、学習内容により効果的な板書を工夫してみましょう。

○　学習内容の再生の場やねらいに合った適用の場の設定を！

再生する場の設定

学んだことを再生する場を設定することで、本時の学びが子ども一人一人のものになっているかを確認できます。学習内容に合わせて、書いたり話したり表現したりする活動を位置付けましょう。

例「キーワードを基に友達に解説しよう。」

ねらいに合った適用問題

○　類似問題を解く
→　一般化を図るために

○　同じ手順で解く
→　定着を図るために

○　誤答を修正させる
→　確かな理解につなげるために

○　別な手順で解く
→　深い理解につなげるために

◇「どのように学習してきたか」を振り返らせるために

○　考えの変容が分かるように記録させるノート指導

問題解決的な学習等における一人一人の追究の過程を重視したノート指導をしましょう。自己の変容や成長を自覚させ、学びの意義を実感させましょう。

【ノート指導の例】

○　板書、追究の過程における自分の考え、参考となる友達の考えに分かりやすい記号を付けるなど、区別して書かせる。
※　間違えた部分があっても消さずに残しておくことが大切です。

○　授業の終末に「めあて→学習過程①→学習過程②→まとめ」の順に簡潔にまとめさせる。

◇「学び続ける態度」を育てるために

○　新たな学びに目を向けさせる。

　実社会や日常生活に関わるような問題や自己のキャリア形成の方向性と関連付けた問題などを紹介し、主体的に学びを連続させていくようにしましょう。

【働きかけの例】・　「今日学んだことは、生活のどんな場面で生かされますか？」
　　・　「〇〇の学習から、新たに疑問に思ったことは何ですか？」　など

○　授業内容と家庭学習を関連させる。➡ P16～P17「ふくしまの『家庭学習スタンダード』の活用について」

　授業内容と家庭学習を関連させることにより、本時の学習が一層定着したり次時の学習への見通しがもてたりして学習への意欲が高まります。その日の家庭学習を想定して、授業に臨みましょう。例えば、次のような家庭学習が考えられます。

○　一層の定着を図る家庭学習　→　授業内容の一層の定着を図るため、作業的にならないように配慮しながら練習する家庭学習
○　応用・発展的な家庭学習　→　授業の内容を発展させた問題や、新たに気付いた問題を解決したり、学んだことを活用したりする家庭学習
○　次の授業のための家庭学習　→　次の授業に必要な既習事項を確認したり関連事項を調べたりしておく家庭学習

子どもの思いを生かしたまとめを！

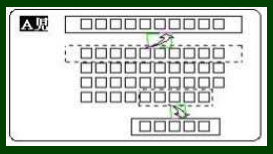
<小学校２学年　算数「ひき算のひっ算」　※　３９－１５の計算の場合>

めあて　２けた－２けたのひき算は、どのように計算すればいいのかな。

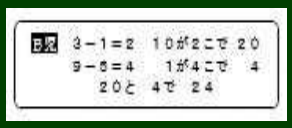
まとめ　２けた－２けたのひき算は、十の位と一の位に分けて計算する。

もんだい　３９－１５

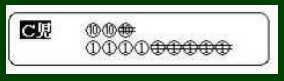
たし算とやり方は同じかな？



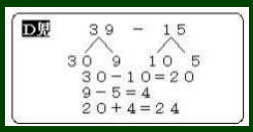
１０を１つ
ばらを５ことる



十の数、一の数でひく



十円を１こと
一円を５ことる



十の位どうし
一の位どうしひく

教師が結論をまとめていませんか？

教師：　どれも１０のまとまりとばらに分けて考えていますね。２けた－２けたの計算は、こうするといいのですね。

教師：（まとめを板書）**２けた－２けたのひき算は、位ごとに分けて計算する。**

教師：では、練習問題をやりましょう。（答え合わせをして、授業終了）

本時に身に付けさせたいことを、子ども自身に獲得させましょう。

授業終了10分前にはまとめ開始！

教師：　今までの話合いで、どの考えも**１０のまとまりとばらに分けて**考えていること、２けたのたし算と同じように、**位ごとに分けて**考えていることが分かりましたね。
　他の問題でもその考えが使えるか、「６８－２４」を解いてみましょう。

児童：　この問題でもその考え方でできた。

教師：　□ に言葉を入れて、まとめましょう。

キーワードを板書等で意識させて、まとめは子どもがつくるようにしたいですね。

２けた－２けたのひき算は、□

児童の記入例
・十の位と、一の位に分けて計算する。
・位ごとに計算する。
・１０のまとまりどうし、ばらどうしで計算する。

※　**ポイント５**については「【県北版】学校教育指導の重点」「各教科等の指導の重点」も参考にしてください。

2　主体的な学習を支える基盤づくり

学級・学習集団づくり　～「認め合い・励まし合い・磨き合い」～

子どもたちが互いに磨き合う集団に高めていくには、どうすればよいでしょうか・・・？

「子どもを認めること」ができているか、もう一度振り返ってみませんか。

子どもの自己肯定感については、各種調査の結果等からも、徐々に改善傾向が見られるようになりました。引き続き、教職員一人一人が共通理解を図りながら、たとえ成果が現われていなくても、子どもが努力したり工夫したりしたことを積極的に認め、励ましていくことが、「認め合い・励まし合い・磨き合う学級、学習集団」へとつながっていきます。一人一人の子どもと向き合い、何を認めてほしいのかを理解することが大切です。

子どもを認めるために…

子どもは何を認めてほしいのだろうか？

「子どもを認める」ために普段から気を付けることはありますか？

実際に、どのように認めていけばよいのでしょうか？
効果的な方法などはありますか？

結果や成果だけでなく、そこに至るまでのプロセスや努力の様子を教師がしっかりと把握し、「心の成長」を認めていくことが、子どもの「またがんばりたい」という意欲の高まりにつながります。

子どもの行動の背景を知ることが大切です。日ごろの観察や関わりだけでなく、生育歴や家庭の様子、興味・関心、特技や苦手なことなどについて、保護者や各担当者と情報を共有することが、児童生徒理解に有効です。

直接言葉で認める以外に、工夫したことや努力したことについて、作品や生活ノートなどに一言コメントを書くなどの姿勢が大切です。また、成長の様子を保護者や他の教師に伝えたり、学級通信などを活用して発信したりするなど、他の人からも称賛されるように工夫することも、子どもの自己肯定感を高める上で有効です。

「認める」から「認め合い・励まし合い・磨き合い」へ

教師が一人一人の子どもを認めようとすると・・・ → 教室に**安心感**が生まれます。

安心感が生まれた教室では・・・ → **自己表現**がしやすくなります。

自己表現が計画的・継続的に行われると・・・ → **互いのよさや違い**がわかります。

互いのよさや違いを理解すると・・・ → **集団活動の意義**に気付きます。

「認め合い・励まし合い・磨き合い」の活動が活発になります。

教師と子どもの信頼関係と自己肯定感の高まりを基盤として、子どもたちが主体となって「認め合い・励まし合い・磨き合い」の活動ができるように、教師が場や機会を準備する必要があります。教師が適切に関わり、必要なルールづくりなどの支援をしていくことが学級・学習集団づくりには不可欠です。

「認め合い・励まし合い・磨き合い」の活動の実現に向けて

子ども一人一人の努力や工夫を積極的に認める関わりを！

Ａさんは、昨日の日直の活動をしっかりやっていましたね。みんなが帰った後、机をきれいに並べてくれたから、今日の朝、教室に入ったとき、とても気分がよかったですよ。

Ａさん：いっしょに日直だったＤさんに、「どうせやるなら丁寧にやろうね」と声をかけたら、「そうだね」と言ってくれたので、二人で頑張れました。

Ｂさんは、給食の準備を手早くやれるよう、いつも班のみんなに声をかけてくれます。準備が早いと、食べる時間にも余裕が生まれて、クラス全員が和やかになりますね。

Ｂさん：班の他のみんなを急かしているようで、いやな思いをさせているかも、と思っていたけれど、クラスのみんなが喜んでくれているならうれしいです。

Ｃさんは、授業中いつも発表する人の方を見てしっかりと話を聞けていてすばらしいですね。しっかりと話を聞けるというのは、大切なことですね。

Ｃさん：私が発表したとき、Ｅさんが私の方を見て話を聞いてくれていたのがうれしかったので、私もそうすることにしました。はじめは恥ずかしかったけど、他のみんなもそうできるといいな、と思います。

子どもたちが自己表現できるような雰囲気の醸成を！

司会者：来月の「セレクト給食」のメニューですが、どうしますか？

Ａさん：わたしは麺がいいです。このクラスには麺が好きな人がたくさんいるし。

そういえば、前回もＡさんが食べたいと言ったメニューだったような…

Ｂさん：

それでは、Ｃさんの意見でメニューを決めていくということでいいですか？

Ｃさん：前回の「セレクト給食」で、好きなメニューが選ばれなかった人の意見を優先したらどうかしら？

互いのよさや違いを認め合うことができるような場面づくりを！

「１分間スピーチ」の次のテーマは、何がいいですか？

Ｃさん：「わたしの見つけた３組のよいところ、改善した方がいいところ」がいいと思います。

わたしは、「よいところ」に絞った方がいいと思うけど。よいところをみんなで出し合ったら楽しそうだし。

Ａさん：

Ｂさん：ぼくは改善するべき点をみんなで出し合う方がいいと思ったけど、Ａさんの考え方もその通りだな。じゃあ、「３組のよいところ」にしよう。

集団活動の意義を理解できるような話合い活動を！

修学旅行の、学級選択コースはどうしますか？

Ｂさん：ぼくは、浅草がいいと思います。東京スカイツリーがどんな様子か見てみたいし、外国人もたくさん来ていると聞いたから。

外国人なら秋葉原の方がたくさんいると思うよ。そもそも、班ごとに選択して行ってはだめなのかしら？

Ｃさん：

Ａさんの言うとおりだね。クラスのみんなで行くことが大切なんだよね。

みんなで話し合って決めた所に、全員でいっしょに行くことが大切なのでは？一生に一度の修学旅行だし。それぞれの意見のよいところをもう一度出し合ってみようよ。

Ａさん：

子どもたち一人一人のよさにしっかりと目を向けること。そして、一人一人の思いや願い、考えをしっかり受け止めることが、集団づくりの基盤です。

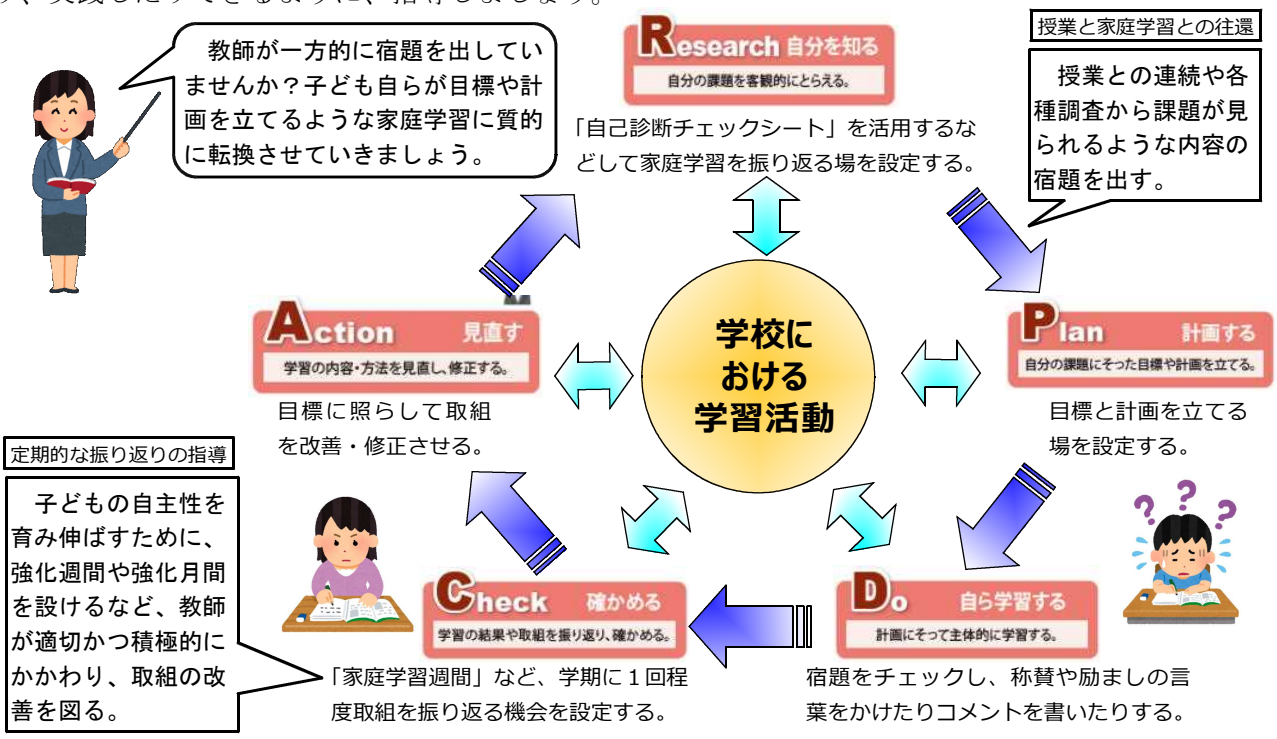
「自分もよくてみんなもよい」という「合意形成を図る話合い」の充実が、「認め合い・励まし合い・磨き合い」の活動の充実につながります。

ふくしまの「家庭学習スタンダード」の活用について

私たち大人は、子どもたちに、変化の激しい時代であっても、豊かな人生を切り拓き、よりよい社会の創り手として成長してほしいと願っています。そのような社会の形成者を育てるために、学校における学習はもちろんのこと、家庭での学習を充実させていくことが求められます。ふくしまの「家庭学習スタンダード」を仲立ちにして、３つの資質・能力を地域・家庭と学校が連携・協力しながら育んでいきましょう。また、ふくしまの「家庭学習スタンダード」について理解を深めるために、義務教育課ＨＰに掲載しているＱ＆Ａ、実践事例集等を御覧ください。

R-PDCAサイクルを通した「自己マネジメント力」の育成を！

家庭学習への取組に当たっては、「**R**esearch 自分を知る－**P**lan 計画する－**D**o 自ら学習する－**C**heck 確かめる－**A**ction 見直す」の５つの段階を設け、子ども自らが主体的に学習や生活を改善していけるようにします。また、子ども自身が、それぞれの段階と学校における学習活動とを結び付けて考えたり、実践したりできるように、指導しましょう。



「こんなふうに家庭学習に取り組んでほしい」という子どもの姿を描きながら、その実現のための取組を全職員で共有し、保護者との協力関係を築いて共に推進しましょう。

全教員でアイデアを出し合いましょう

＜例＞

アイデア①　学習方法の確立

・ 進学を考えると、自分で学習できるようになってほしい。目標だけでなく、課題に取り組む順序の計画も立てさせよう。

アイデア②　計画を立てる時間の確保

・ プランニングシートを書かせる時間が必要だ。日課表を見直して、計画のために短学活を１５分間にしよう。

アイデア③　「自学（自主学習）力」の向上

・ 自分で学習課題を見いだせるようになってほしい。自主学習で自己課題解決の日を週末に位置付けよう。

アイデア④　地域素材や人材の活用

・ 自己課題の解決のためには、地域の「人、もの、こと」をおおいに活用してほしい。人材リストや施設紹介ファイルを準備しよう。

＜保護者への協力要請＞

ＰＴＡ集会や学級、学年懇談会、個別懇談などの機会をとらえ、家庭学習を充実させる３つの視点について話題として、協力を要請しましょう。

視点1　心の支え

・ コミュニケーションを大切に
・ 安心感を与えられるように

視点2　環境づくり

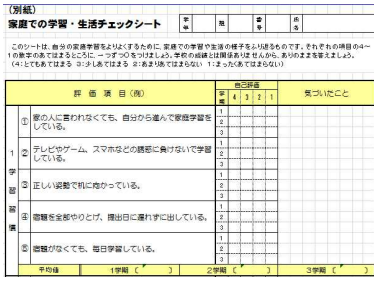
・ 集中できる環境
・ 家族で一緒に読書
・ 地域行事や体験活動

視点3　習慣づくり

・ 早寝・早起き・お手伝い
・ 毎日の朝ごはん
・ テレビやゲーム、スマホなどのルール

「家庭学習スタンダード」に基づく「学校の４つの取組」例

「家庭学習スタンダード」に示している「学校の４つの取組」の例を紹介します。それぞれの学校の実態に応じて、実効性のある実践に結び付けるために参考にしてください。


（別紙）
家庭での学習・生活チェックシート

学年　　年　　組　　番号　　氏名

このシートは、自分の家庭学習をよりよくするために、家庭での学習や生活の様子をふり返るものです。それぞれの項目の4～1の数字のあてはまるところに、一つずつ○をつけましょう。学校の成績とは関係ありませんから、ありのままを考えましょう。
（4：とてもあてはまる　3：少しあてはまる　2：あまりあてはまらない　1：まったくあてはまらない）

		評価項目（例）	自己評価				気づいたこと
			学年	4	3	2	1	
1 学習習慣	①	家の人に言われなくても、自分から進んで家庭学習をしている。	1 2 3				
	②	テレビやゲーム、スマホなどの誘惑に負けないで学習している。	1 2 3				
	③	正しい姿勢で机に向かっている。	1 2 3				
	④	宿題を全部やりとげ、提出日に遅れずに出している。	1 2 3				
	⑤	宿題がなくても、毎日学習している。	1 2 3				
平均値			1学期（　　）		2学期（　　）		3学期（　　）

自己マネジメント力を育成するために、５つの観点「学習習慣」「生活習慣」「学習時間」「学習内容」「学習方法」で子どもの家庭学習状況を捉えましょう。各観点につながる取組のアイデアを先生方で出し合い、実践しましょう。

チェック機能を働かせるために、義務教育課ＨＰから「家庭での学習・生活チェックシート」（左に示したもの）をダウンロードして活用することができます。

取組①　共通理解を図った指導

○　**家庭用「家庭学習の手引き」の作成**
- 家庭で取り組むことを中心にまとめた家庭用の手引きを作成する。
- 祖父母にも協力いただける内容とする。

○　**９年間の「家庭学習の手引き」の作成**
- 小・中学校の９年間を見通した手引きを作成する。

○　**各教科で量や時期のバランスをとる工夫**
- 職員室前に「家庭学習予定表」や「宿題ボード」を掲示し、各教科担当者が、日付のところに課題を記入する。

○　**家庭への協力を呼びかける工夫**
- 毎週末に「学年だより」を発行し、家庭学習に関係する子どもの様子を伝えたり、協力を依頼したりする。

取組②　授業と家庭学習との関連付け

○　**家庭学習を活用した授業づくり**
- 既習と未習の問題を組み合わせた課題に取り組むことで「できる→できる→できない」を事前に体験させ、次時の導入で取り上げる。

○　**発展的・連続的に学ばせる工夫**
- 発展的な学習を促し家庭学習につなぐため、図書館の環境整備をする。
- 授業で見いだされた新たな課題を追調査させ、連続した学びにする。

○　**小学校専科教員による家庭学習の指導**
- 専科教員が、深い教材研究に基づき、授業で身に付けた知識や技能を活用できるような宿題を出し、学習の仕方も含めて指導・助言する。

授業の充実

取組③　内容・方法の指導

○　**「家庭学習強化週間」の実施**
- 「家庭での学習・生活チェックシート」に基づき、個別に指導・助言する。

○　**「縦割り班」による取組**
- 縦割り班で生活改善について話し合った結果を、全校集会で発表する。

○　**ノート展示による参考例の紹介**
- 教師のコメントを記入した自主学習ノートを、一定期間、廊下に展示する。

○　**「学級力」の向上を図る取組**
- 学級のよさや課題について自己評価した結果を可視化し、話し合う。

○　**日々の家庭学習のプランニング**
- 「帰りの会（短学活）」開始前に、帰宅後の学習内容を考え、生活ノートに記入する時間を設ける。

取組④　協力・連携体制の構築

○　**中学校区としての共通実践**
- 中学校区として教員同士が話し合い、「学習の手引き」に共通実践事項を設ける。
- 中学校区として公開授業を開催し、「家庭学習の充実」も含めた協議をする。

○　**学習に関する教育相談の実施**
- 生徒指導の教育相談の内容として「学習」に関する悩みを聞く。
- 課題解決型の自主学習課題に取り組ませるための助言をする。

○　**地域の施設への協力依頼**
- 自主的な追究活動で利用できそうな施設に「家庭学習の手引き」を配付し、協力を依頼する。

3　日々の授業づくりを支える視点

連続性のある幼小中の接続となるために
～幼児教育の視点から～

子どもの資質・能力を育成するためには、幼児教育でどのような取組がなされているのかを知る必要があります。今後の小・中学校での取組を改善するための参考にしてください。

	幼稚園等で行っている取組	接続のポイント
学び・人格形成	◇　学びの連続性を踏まえた保育の改善 ・ 長期的・短期的な指導計画 （幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿） ・ 保護者の保育参観・保育参加 ・ 遊びの中にある「気付き」「試行錯誤」の重視	幼小の育ちと学びをつなぐ**「スタートカリキュラム」**による指導を充実させましょう。
心ゆさぶる体験	◇　言葉による思いを伝え合う場の設定 ・ 伝え合いの機会の確保 ・ 自分の言葉を使った表現 ・ 互いを認め合う学級・集団づくり	学習の成果を**話したり、書いたりする活動**を設定して表現力を育てましょう。
運動量の確保	◇　主体的に体を動かす遊びの工夫 ・ 遊具の工夫や季節に合う環境づくり ・ 十分な運動量の確保 （幼児期運動指針）	様々な場面で**運動する時間を確保**し、体力向上や肥満解消を図りましょう。
一人一人の見取り	◇　よさや可能性に目を向けた評価の工夫・活用 ・ 指導を振り返る話合い ・ 目指す子どもの姿に照らした評価 ・ 個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成 ・ 保護者との合意形成 ・ 関係機関との連携	幼稚園等からの**情報を共有**し、児童生徒理解につなげましょう。

幼稚園等の保育、小・中学校の指導の相互理解を！

幼稚園等、小・中学校の先生方が共に集まり、研究授業を通した情報交換をすることによって、それぞれの指導観や指導法を理解したり、指導の方向性を共通化したりすることができます。

小学校研究授業の事後協議会から

幼稚園教諭

めあてがあることで、何を、どのようにすればよいのかが分かるのですね。園児にも、目標をもたせる工夫をしたいと思います。

指導方法について考え方を共有

めあてとまとめの整合性を図ると、学習内容の確認ができますね。授業の中に、まとめや振り返る時間を確実に設けたいと思います。

中学校教諭

小学校教諭

子ども一人一人に学習の目標をもたせることは、主体的に学ぶことにつながるということ、時間内に学習内容の確認をしたり、適用の機会を設けたりすることは、定着につながるということを話し合いました。これからの指導に生かしていきましょう。

◇　幼児教育と小学校教育の「育ち」と「学び」をつなぐ

小学校1年生の学びは、ゼロからのスタートではありません。
「スタートカリキュラム」で学びをつなぎましょう。

子どもは幼児期にたっぷりと学んできます。

「スタートカリキュラム」って小学校の生活に慣れさせるためのものですよね？

そのような側面も確かにあります。しかし、「スタートカリキュラム」を作成・実施する上では、次のような考えがとても大切です。

それは、「幼稚園等での遊びや生活を通した学び（学びの芽生え）」と、「各教科等の学習内容について、授業を通して自分の課題解決に向けて計画的に学んでいく小学校の学び（自覚的な学び）」をつなげるということです。カリキュラム編成の手順と具体例を示してみます。

【 カリキュラム編成の手順と具体例 】

この時期の子どもの成長は驚くほど速い！

ステップ1　成長の姿を週や月の単位で明らかにする。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

	4 月 ゆるやかに	5 月 たしかに	6 月
〈基本的な生活〉	第１週　第２週　第３週　第４週 ・ 教室で安心して過ごす。 ○ 気持ちよいあいさつや返事ができる。 ○ 学校の様子が分かる。	・ 学校のきまりが分かる。 ・ 時計を見て行動する。 ・ 当番や係の仕事が分かる。 ・ 物を大切に扱う。	・ 学校のきまりに従って行動する。 ・ 授業と休み時間のけじめをつけて生活する。
〈人との関わり〉	○ 先生や友達の名前が分かる。 ・ 友達と仲よくする。 ・ 自分の思いを伝える。	・ 友達と関わって活動する。 ・ 学校の中のいろいろな人と交流する。	・ 友達と協力して活動する。 ・ 友達のよいところが分かる。 ・ 縦割り班の友達が分かり、一緒に活動する。
〈学習との関わり〉	○ 失敗を恐れないで取り組む。 ・ 学習の準備ができる。 ○ よい姿勢ができる。	・ 新しいことに取り組もうとする。 ・ 最後まで話を聞く。	・ 声の大きさを考えて話す。 ・ ノートのとり方が分かる。 ・ 宿題を忘れない。

関連

ステップ2　成長の姿に適合した単元（合科・関連など）を構成して配列する。

生活科を中心とした、合科的・関連的な指導（４月の単元例）

※ゴシックは幼児期に経験している活動

単元名「なかよしいっぱい がっこうだいすき」		【 合科：生活3 国語1 音楽1 図画工作1 体育1 】 1/3=15分		
はじめまして	すきなえいっぱい	うたであいさつ	がっこうたんけん①	えんぴつのもちかた
じこしょうかいをしよう うた**「さんぽ」** ３０分 生１／３ 音１／３	すきなえをかいてはっぴょうしよう ３０分 図１／３ 国１／３	**「じゃんけんれっしゃ」** **「ロンドンばし」** **「きびたんたいそう」** ３０分 音１／３ 体１／３	どんなきょうしつがあるのかな ４５分 生３／３	よいしせいで、じぶんのなまえをかこう １５分 国１／３

ステップ3　単元計画に基づいた学習活動を週の計画として時間配分する。

○　入学当初は１単位時間を柔軟に扱い、子どもが集中できる時間で楽しく学習に取り組めるように弾力的な時間割を設定する。
○　幼児期に経験した活動を取り入れ、子どもが自信をもって自己発揮できるようにする。
○　特に１年生の４月は、日課表が他学年と異なることが多いため、学校全体で１年生の育ちを見守る姿勢を大切にする。

その他に、日頃からこんなことを・・・

○　「生活しやすい環境」「学びやすい環境」「学習のきっかけが生まれる環境」をつくる。
○　「うた」「手あそび」「ダンス」「工作」「うんどう」「おにごっこ」「行事」など、幼児期にどんな活動を行ってきたかを把握する。
○　幼稚園等での学びを理解し、就学前の子どもができることを生かして小学校の学習につないでいくことができるように、幼稚園等での参観を通して子どもの姿を捉えたり、教員同士の情報交換を行ったりする機会を設ける。

子どもたちの夢をかなえる中・高連携の在り方

～高等学校教育の視点から～

中学校から高等学校への接続は、子どもたちが社会に出ることをより強く意識するようになることを踏まえてなされる必要があります。子どもたちが高等学校に入学した後も、生き生きと学んでもらいたいと願うのは、それぞれの教員に共通することです。ここでは、中学校入学から高等学校卒業までの学びが、子どもたちの夢の実現につながるよう、配慮したい点を紹介します。

◇　高等学校へは、自己マネジメント力と主体性を身に付けて

「家庭学習スタンダード」

自己マネジメント力の育成
（自分の課題を捉え、
計画を立て、
主体的に学習する、等）

※　家庭学習の時間や量だけが重要なのではありません。
（P16～17 を参照）

高等学校
進学後も

大切にしたいこと

主体性のある学びへ
向かうための学習習慣を

「予習・復習を大切にする。」
「疑問点は、積極的に先生に質問する。」
「ノートを自分なりに工夫してとる。」
「学校での勉強以外に、たくさん本を読む。」

◇　高等学校でも、生き生きと学ばせたい

高等学校卒業後の進路実現へ

高校生になった子どもたちの理想的な姿

○　自らの意思で入学した高校であり、将来の目的・目標が明確である。
- 自分の関心や進路目標に基づいた科目選択ができる。
- 高等学校生活で何を探究したいのかが具体化している。
- 高等学校卒業後、どのような人生を送りたいかを考えている。

中学校までの学びで身に付けた資質・能力

◇　系統性を意識した学びによる中・高連携

中学校は、３つの校種の中間に位置します。小学校での学びを基にしながら、高等学校での学びにつなげる視点で生徒の資質・能力を育むことが大切です。学校段階が上がるにしたがい、知識・技能として身に付けたより多くの事項・要素・要因を思考・判断・表現の材料とすることで、子どもたちはより広く深く事象を理解し、捉えることができるようになります。

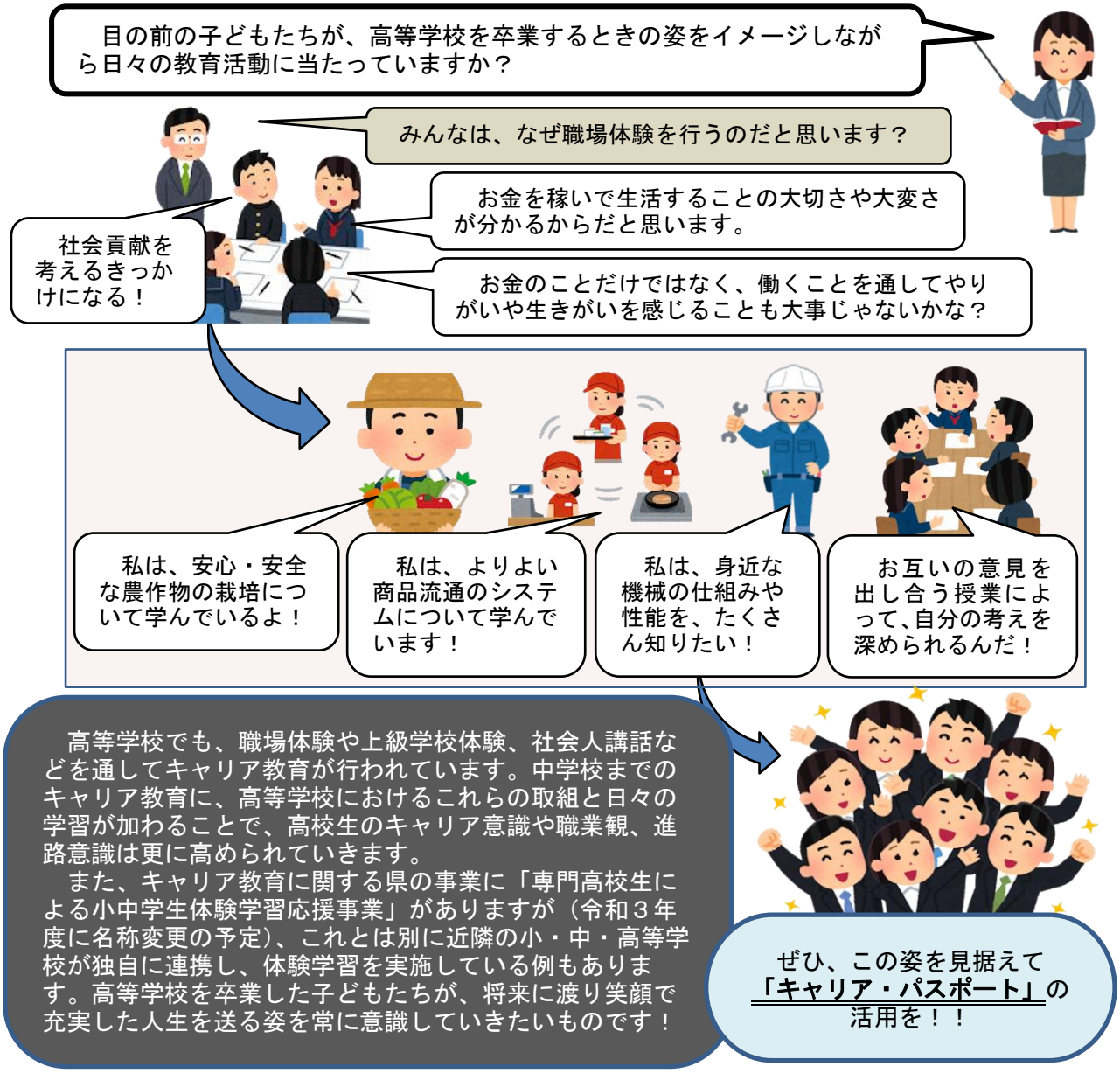
中学校・高等学校の教師が、互いの指導内容を系統的に理解することで、高等学校での学びに向けた土台作りや中学校での学びの発展に向けた仕掛けが、双方の授業に意図的に組み込まれることになります。この学びの連携が子どもたちの学力向上につながっていくのです。

【例：社会科（地理分野）「日本の気候」】

小学校での学び	中学校での学び	高等学校での学び
日本の気候は、南北の位置や地形、つゆや台風、季節風、土地の高さなどの影響を受け、地域ごとに異なることを学びます。 【日本の気候に関する基礎的な学び】	小学校で学んだ事項を基に、季節風や海流の性質の違い、海からの距離などの要素が、地域ごとの気候の違いに影響を与えていることを学びます。 【日本の気候に影響を及ぼす多様な要素とその関係に関する基本的な学び】	中学校で学んだ事項を基に、季節風が生じるしくみや海からの距離が気温や降水量に影響を及ぼす理由などを学び、日本の気候が地域ごとに異なる要因を、四つの気団とも関連付けて考えます。 【多様な要素・要因が日本の気候に影響を及ぼすしくみに関する発展的な学び】

◇　キャリア教育と中・高連携

○　中学校でのキャリア教育が、高校生のキャリア意識・進路意識の土台となります。



◇　知っておきたい！　高等学校をめぐる最近の動向Ｑ＆Ａ

Ｑ　新しい高校入試は、これまでと何が違うのでしょうか？

Ａ　これまでⅠ期・Ⅱ期・Ⅲ期に分かれていたものが、令和２年度の入学者選抜から、前期（３月上旬）と後期（３月下旬）に再編されました。特に前期選抜は、特色選抜と一般選抜がありますが（併願も可能）、受験生全員が５教科の学力検査を受けることになります。

Ｑ　新入生を迎える高校では、中学校からの引継ぎの際、どんな情報が必要なのでしょうか？

Ａ　中学校で不登校やトラブルなどがあった生徒の場合、その原因や背景についての情報が必要です。特に、特別な支援や配慮を必要とする生徒についての情報は、確実に引き継ぐことが重要です。高校でも個別の教育支援計画等を活用することで、継続的に自己有用感や自己肯定感を育成することにつながります。

Ｑ　高校での学習において、最近の特徴として言えることはどんなことでしょうか？

Ａ　学習指導要領の改訂や大学入学共通テストへの移行に伴い、知識・技能の定着はもちろん、思考力・判断力・表現力の育成にも力点が置かれ始めています。ペアワークやグループワークを行い、記述や口頭で自分の考えを発表する授業も多く見られるようになりました。また、高校での活動の記録や実績を電子媒体でポートフォリオにまとめる取組も始まり、主体性を評価するための資料として、大学等への出願の際に活用される予定です。

すべての子どものよさや可能性を最大限に引き出すために
～ユニバーサルデザインの視点から～

通常の学級にも学びや学校生活に困難さを感じながら過ごしている子どもたちがいます。どうすればよいでしょうか？

すべての子どもにとって分かりやすいユニバーサルデザインの視点で学級全体を支援し、見通しをもって安心して学び、生活できる環境づくりを行います。
その上で、特別な支援が必要な子どもに個別の支援を行います。
これらを学校全体で共有し、取り組むことが重要です。

学級全体への支援と個別の支援をバランスよく行い、自己有用感、自己肯定感を育み、すべての子どものよさや可能性を引き出していきましょう！

学びの困難さには

～ 困難さに対する個別の支援 ～

● Ａさんは、授業中に集中が途切れる。
□ 座席の位置を工夫する。（廊下側や窓側は避ける、支援しやすい前列や見本になる友達の近くにするなど）
□ 活動の終わりを具体的に示す。（何分、どこまでなど）

● Ｂさんは、整理整頓が苦手で、授業準備や課題への取組が遅れる。
□ 何をどこに置くのかを具体的に決めて写真で示す。
□ ケースにしまう、ファイルに綴じるまでを活動にして、学級全体で取り組む。

● Ｃさんは、板書を書き取るのに時間がかかる。
□ ワークシートを活用して書く内容を精選する。
□ 書き取る時間を保障する。
□ 特別支援教育支援員等がホワイトボードなどに書き写し、それを見ながら書き取る。

高めよう！ 自己有用感！ 自己肯定感！

～ ユニバーサルデザインによる全体への支援 ～

学習環境を整えましょう！

□ 黒板や黒板周りにはその授業に関係するもののみ掲示する。

□ 板書を構造化する。（チョークの色使いの統一、学習の流れを示すなど）

□ 刺激になるものをカーテンや布で覆う。

□ 予定を変更する場合は必ず予告する。（変更となった活動はいつ行うのかも伝える）

□ 基準が明確で分かりやすい学級ルールをつくる。

分かりやすく伝えましょう！

□ 「大事なことを一度だけ言います。」など、子どもの注意を引きつけてから話す。

□ 指示は短く、具体的に伝える。

□ 重要なことは、板書する。

□ 絵や図、文字などを用いて指示内容や順序を可視化し、見通しがもてるようにする。

□ 教師の視線、しぐさ、声の大きさやトーンを変化させるなど、子どもへの伝わりやすさを考える。

称賛し、認めましょう！

□ 得意なこと、興味・関心があることに注目する。

□ よさや得意なことを生かし、人の役に立った、人に喜んでもらえた等の経験ができるようにする。

□ 頑張りを認め、あたりまえのことを自然に行っている子どもへの称賛を忘れない。

□ 子どもや行動に応じた効果的なほめ方を探す。

※ 他人への迷惑行為などには、毅然とした態度で接することが大切です。

困難さに対する個別の支援内容については、「学習指導要領解説　自立活動編」などを参考に先生方で検討した上で、「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」に盛り込みます。担当する先生方で共有、活用し、進級、進学時には適切に引き継ぐようにしましょう。

２つの計画の様式や作り方は、特別支援教育センターＨＰ掲載の「コーディネートハンドブック」を参考にしてください。　※Ｐ２３　ＱＲコードＩ

学びの困難さに応じた指導の工夫！

学びにくさに応じた工夫にはどんなものがあるのでしょうか？詳しく知りたいのですが、何か参考になるものはありますか？

小・中学校学習指導要領解説各教科編には、「１０の視点」で困難さを見取り、それに応じた指導内容や指導方法の工夫が示されました。

◇　困難さ【１０の視点】

① 見えにくさ　② 聞こえにくさ　③ 道具の操作の困難さ
④ 移動上の制約　⑤ 健康面や安全面での制約　⑥ 発音のしにくさ
⑦ 心理的な不安定　⑧ 人間関係形成の困難さ
⑨ 読み書きや計算等の困難さ　⑩ 注意の集中を持続することが苦手

特別支援教育センターＨＰ掲載の「コーディネートハンドブック」には、学習指導要領各教科解説編に対応した具体的な実践事例が、教科ごとに掲載されています。

教科書がうまく読めないよ・・・

Ｄさんは、一行とばして読んでしまうことが多いわ。どんな「困難さ」があるのだろう？
【１０の視点】からすると、①・⑨・⑩かな？

Ｄさんは行を追って読むことが難しいのかな。工夫の意図・手立てに書いてあるように、教科書を拡大コピーして、読む行に定規を当てて読むようにさせてみよう！

Ⅲ―１一人一人の特性等に応じた必要な指導や支援のために　☆①情報補助資料

☆障がいのある児童生徒などへの配慮
～国語編～

小学校学習指導要領解説国語編・中学校学習指導要領解説国語編に掲載されている内容をまとめました。

【小学校　国語の配慮例】

1　文章を目で追いながら音読することが困難な場合

【１０の視点*1】から予想される困難さ
（例）　①見えにくさ　⑨読み書きや計算等の困難さ　⑩注意の集中を持続することが苦手

＜そのための指導の工夫の意図、手立て＞
自分がどこを読むのかが分かるように教科書の文を指等で押さえながら読むよう促すこと、行間を空けるために拡大コピーをしたものを用意すること、語のまとまりや区切りが分かるように分かち書きされたものを用意すること、読む部分だけが見える自助具（スリット等）を活用することなどの配慮をする。

※Ｐ２３　ＱＲコードⅡ

文字が大きくて、見やすいな！定規を当てているからどこを読めばいいか分かりやすくなった！

障がいのある子どもを指導する場合でも、教科等の目標や内容の趣旨、学習活動のねらいを踏まえ、学習内容の変更や学習活動の代替を安易に行うことがないように留意し、指導や手立てを工夫していくことが大切です。

ＱＲコードⅠ　ＱＲコードⅡ

4　明確な目標設定による組織的な学力向上策の推進

◇　PDCAサイクルで学力向上を！

ロングスパンの取組例

4月　学力向上グランドデザイン作成　P

全国学力・学習状況調査　D

ふくしま学力調査

5月

まずは全教員で問題を解くことから始めてみましょう！（全国学調）

6月

C 解答状況の分析　A 取組の改善

7月

単元末や学期末の明確な目標を設定しましょう！

ワークテスト、定期テスト

ふくしま学力調査結果の学校配付

8月

全国学力･学習状況調査結果公表

9月

「報告書」を参考にして身に付けさせたい力を明確にしましょう。課題を洗い出し、個に応じた指導を行いましょう。

C 結果の分析　A 学力向上グランドデザインの改善

10月

11月

教科部会や学年会などで取組を計画的に検証、改善していくことが大切です！

12月

1月

2月

全国学力･学習状況調査、ふくしま学力調査等の結果の分析も生かしてグランドデザインを作成しましょう。

3月

次年度の学力向上グランドデザイン作成　P

《授業の充実》学力向上グランドデザインに基づいた実践・改善

C　A　検証　改善

★　全国学力・学習状況調査、ふくしま学力調査や諸検査を活用し、時期をとらえて、Check（分析）とAction（改善）を行い、取組の改善を進めましょう。

★　県内全ての小・中・義務教育学校が少人数教育実践校です。全教員が、少人数教育の「目的」「実践事項」「期待する子どもの姿」を共有し、日々の実践を充実させましょう。

P　実効的な学力向上グランドデザインの作成

＜組織的な取組の視点から＞
- 教科部会、学年会の時間割への位置付け
- 実施時期、担当者の明確化

＜目指す子どもの姿から＞
- 自校の実態の把握

＜授業改善の視点から＞
- **「主体的・対話的で深い学び」の実現**の視点
- 重点単元の設定

＜授業外の手立ての改善の視点から＞
- 習熟の時間の確保、内容、方法
- 学習環境の整備、充実

＜学習習慣、生活習慣の改善の視点から＞
- 自己マネジメント力の育成（「家庭学習ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ」の活用）
- 読書活動の推進・メディアに関する指導

D　共通実践を全校体制で
- 「授業スタンダード」に基づく実践
- 「家庭学習スタンダード」に基づく実践
- 活用力育成シート
- 学力調査の問題を活用した教材研究
- 互見授業

C　指標を設定して取組の評価を計画的に

＜授業改善へ向けて＞
- 単元（評価）テスト、定期テスト（中）
- 全国学力・学習状況調査、ふくしま学力調査
- 定着確認シート
- 授業研究会の自己評価・協議・助言
- 子ども、教師の自己評価

＜学びの基盤形成へ向けて＞
- 全国学力・学習状況調査、ふくしま学力調査
- 家庭学習強化週間・強化月間
- 保護者アンケート、学校評価　等

A　実施可能な手立てを精選して
- 目標に照らして手立ての改善
- 「報告書」や「授業アイデア例」の活用
- 系統性を踏まえた学年ごとの取組の明確化

P　よりよい学力向上グランドデザインの作成

ショートスパンの取組例

P：単元構想
- 単元構想
- 単元計画

D：授業実践
- 活用力育成シート
- 言語活動
- 補充的指導

C：評価問題の実施
- 定着確認シート
- 授業の振り返り

A：手立ての改善
- 課題の明確化
- 重点化

活用力育成シートや定着確認シートなどを活用してショートスパンのPDCA サイクルの充実を図りましょう。特に課題となっている単元や領域、解答方法など、子どもの実態に応じて問題を選びながら活用することで、補充学習などが効率的に実施できます。

教科、学年、経験年数などにとらわれず、教師同士、学び合っていきましょう。日常的に授業づくりや家庭学習などについて話し合うことで、「省察」「自己研鑽」に励む教師集団となっていきます。また、要請訪問などを活用して外部講師による具体的な指導・助言を受けることで自分たちの取組を振り返っていくと、さらに学力向上への意欲が高まります。

＜　参考文献・引用文献　＞

○　幼稚園教育要領(平成２９年３月)　文部科学省
○　幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成２９年３月)
内閣府、文部科学省、厚生労働省
○　保育所保育指針(平成２９年３月)　厚生労働省
○　小学校学習指導要領(平成２９年３月)　文部科学省
○　中学校学習指導要領(平成２９年３月)　文部科学省
○　高等学校学習指導要領（平成３０年３月）　文部科学省
○　特別支援学校学習指導要領（幼稚部･小学部･中学部）(平成２９年４月)文部科学省
○　特別支援学校学習指導要領（高等部）(平成３１年２月)　文部科学省
○　小学校学習指導要領解説（各編）(平成２９年７月)　文部科学省
○　中学校学習指導要領解説（各編）(平成２９年７月)　文部科学省
○　高等学校学習指導要領解説（各編）（平成３０年７月）　文部科学省
○　特別支援学校学習指導要領解説（幼稚部・小学部・中学部各編）(平成３０年３月)
文部科学省
○　特別支援学校学習指導要領解説（高等部各編）(平成３１年２月)　文部科学省
○　幼児期運動指針(平成２４年４月)　文部科学省
○　高大接続改革の実施方針等の策定について　文部科学省
○　楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動　小学校編
文部科学省　国立教育政策研究所　教育課程研究センター
○　学級・学校文化を創る特別活動　中学校編
文部科学省　国立教育政策研究所　教育課程研究センター
○　スタートカリキュラムスタートブック(平成２７年１月)
文部科学省　国立教育政策研究所　教育課程研究センター
○　ふくしまの「授業スタンダード」　福島県教育委員会
○　ふくしまの「家庭学習スタンダード」　福島県教育委員会
○　ふくしまの家庭学習を充実させるために　義務教育課ＨＰ
○　ふくしまの「家庭学習スタンダード」Ｑ＆Ａ　義務教育課ＨＰ
○　ふくしまの「家庭学習スタンダード」を
活用した家庭学習の充実に向けた実践事例集　義務教育課ＨＰ
○　ふくしまっ子　児童期運動指針（平成３０年３月）　福島県教育委員会
○　「授業をつくる１６の視点」　福島県教育資料研究会
○　「日々の授業のブラッシュアップVol.1」
－授業の基礎／基本「発問、板書、ノート指導」－　福島県教育委員会
○　「日々の授業のブラッシュアップVol.2」
－授業を支える「教材研究、学習指導案、話合い、基本的な学習習慣」－
福島県教育委員会
○　「授業におけるコーディネートの在り方」　福島県教育センターＨＰ
○　コーディネートハンドブック　福島県特別支援教育センターＨＰ
○　全国学力・学習状況調査　解説資料　文部科学省　国立教育政策研究所
○　全国学力・学習状況調査　報告書　文部科学省　国立教育政策研究所
○　「学習評価の在り方ハンドブック」　文部科学省　国立教育政策研究所
○　初等教育資料（平成２６年度～令和２年度発行分）　文部科学省教育課程課
○　中等教育資料（平成２６年度～令和２年度発行分）　文部科学省教育課程課